

いじめ防止基本方針

吹田市立豊津中学校

令和8年4月1日

(目的)

第1 いじめは、「どの子供にも、どの学校でも起こりうること」であり、いじめを受けた生徒の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。以下、「いじめは絶対に許されない」学校を構築するため、「いじめの防止」「早期発見」「いじめに対する措置」等に関する基本方針を定める。

(いじめの防止)

第2 いじめを未然に防ぐため、次にあげる事項に努める。

1 児童・生徒一人ひとりの尊厳が守られ、いじめに向かわせないための未然防止に、すべての教職員が取り組む。

(1) 日常的に生徒の行動の様子を把握し、必要に応じて声かけや面談を行う。

(2) 欠席日数や部活動の参加状況等を注視し、情報を保護者とも共有する。

(3) 「いじめ防止対策委員会」の機能性を高める。

(組織は、管理職・首席・生徒指導主事・各学年担当者・養護教諭・心理〔スクールカウンセラー〕、福祉等の専門的知識を有する者〔スクールソーシャルワーカー〕、いじめ予防リーダー、いじめ対応支援員、その他の関係者により構成する。)

(4) いじめの防止等に関する年間計画を策定する。

(5) 年複数回の校内研修を計画的に行う。

2 いじめについての共通理解を図り、生徒がいじめに向かわない態度・能力を育成するとともに、いじめが生まれる背景を把握し、自己有用感や自己肯定感を育み、生徒自らがいじめについて学ぶ取組を進める。

(1) 教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育を充実させ、いじめ予防授業に取り組む。

(2) 読書活動や体験活動等を推進し、幅広い社会体験や生活体験の機会を設ける。

(3) 言語活動を充実させ、生徒のコミュニケーション能力を向上させる。

(4) 生徒会活動を活性化し、生徒自らが「いじめ根絶」に取り組む姿勢を育む。

(5) とともに学び、ともに育つ教育環境づくりを進める。

(6) インターネット等で行われるいじめを防止し、効果的に対応することができるよう、生徒への情報モラル教育、デジタル・シティズンシップ教育および保護者への啓発活動を進める。

(7) 小・中の適切な連携と取り組みを深める。

(早期発見)

第3 いじめを早期に発見するため、次にあげる事項に努める。

1 生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないよう積極的にいじめを認知するためのアンテナを高く保ち、早い段階から複数の教職員で的確に関わるとともに、暴力を伴わないいじめや、潜在化しやすいグループ内のいじめなどにも注意深く対応する（一方的なケンカ、悪ふざけ、からかいなど）。

(1) 日常の生徒相互の人間関係を把握し、週1回の定例の学年会議や生徒指導会議を通してささいな兆候も教職員間で共有する。

(2) 学校生活アンケートを学期に1回程度実施する。その後、3年間保存する。

(3) 学校生活アンケートの実施時に『マモレポ』の周知を図り、情報収集に努める。

(いじめに対する措置)

第4 いじめを発見・通報した場合は、次にあげる事項に努める。

- 1 発見・通報を受けた場合は、特定の教職員で抱え込まずに対応するとともに、「いじめ防止対策委員会」に報告・相談する。また、被害生徒を守り、加害生徒の社会性の向上や人格の成長に主眼を置いた指導を行う。
 - (1) いじめと疑われる行為を発見した場合は、その行為を制止し、相談や訴えがあった場合は、被害生徒および相談者の安全を確保しながら事態の把握に努める。また、事後の見守りを行いながら、(3)以降に示す状況にまで至らぬように関係の修復を図る。
 - (2) 事態の軽重に関わらず、保護者へ事実関係を必ず伝える。
 - (3) 被害生徒に寄り添い、支える体制づくりを行い、必要に応じて加害生徒を別室指導や出席停止とする。
 - (4) 好ましい集団活動を取り戻し、新たな活動を踏み出すために、必要に応じて警察等関係諸機関の協力を得る。
 - (5) いじめを見ていた生徒に対しても、自分の問題としてとらえるよう指導する。
 - (6) 周囲にいた生徒からの聞き取りを十分に行い、公正公平な判断をするように指導する。
 - (7) いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものと認められる場合には、市教育委員会と連携し、また警察と相談して対応する。生徒に重大な被害が生じる恐れがある時は、直ちに警察に通報し、適切に支援を求める。
 - (8) 「組織的な対応の流れ」を策定し、早期解決に努める。
 - (9) 事後の見守りを一定期間（いじめに関わる行為が無くなってから最低3ヶ月以上）適切に行う。
 - (10) 被害生徒本人（およびその保護者）に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談などにより確認する。

2 重大事態が発生した場合は、「いじめ防止対策委員会」が初動調査から実態の把握・分析等を一括して行うとともに、市教育委員会に報告し、事態の早期解決に努める。

- (1) いじめにより被害生徒に重大な被害が生じた疑いがある場合や、いじめにより欠席を余儀なくされている疑いがある場合等は、担任を含む学年生徒指導部、クラブ顧問による調査を行い、事態の早期解決に取り組む。
- (2) 調査チームは、被害・加害生徒からの聴き取りや質問紙によるアンケート調査の実施等を速やかに行い、要望や意見を十分に聴取する。
- (3) 必要に応じて、被害生徒およびその保護者の所見を添え、管理職の判断で市教育委員会に報告する。

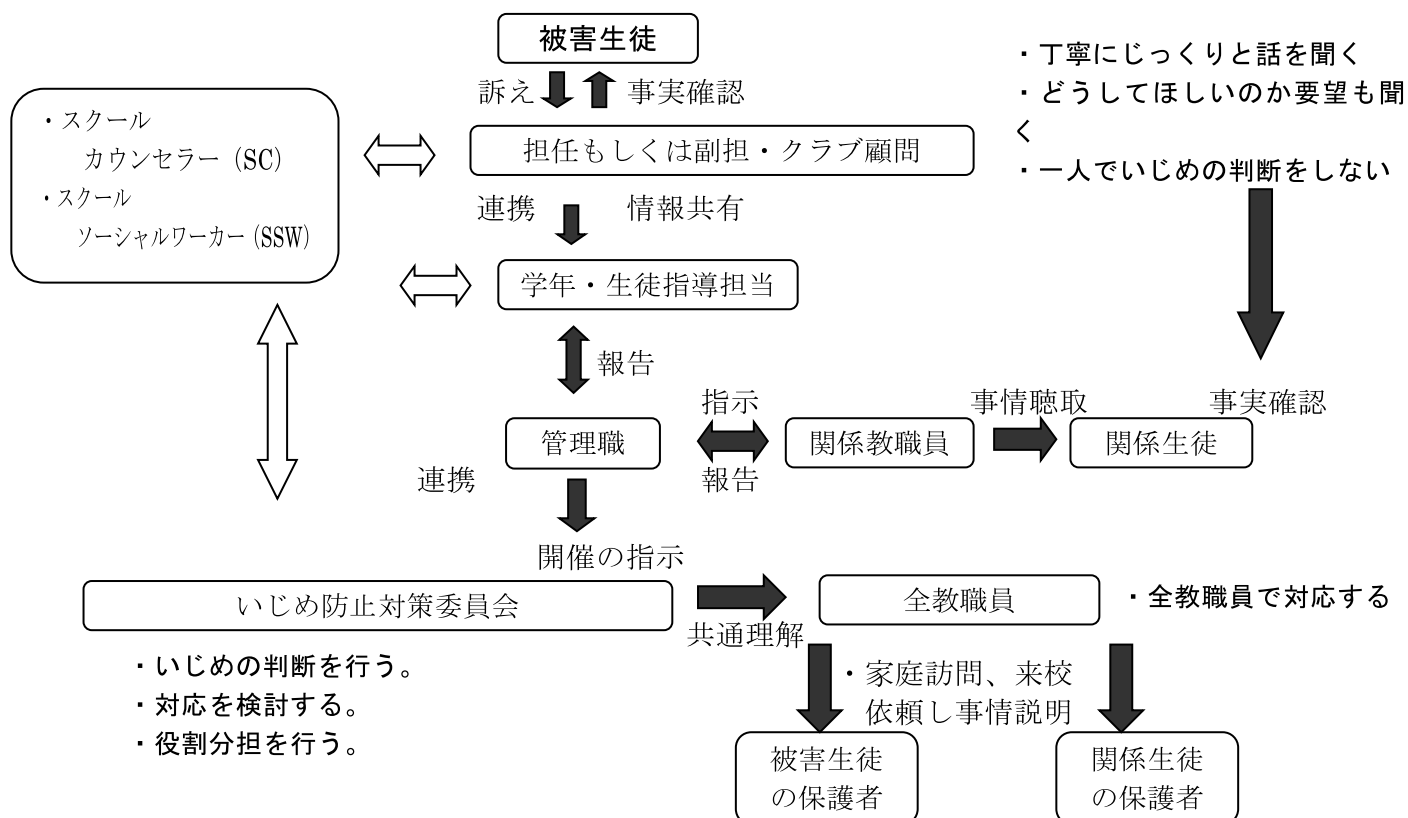
(その他)

第5 この基本方針は、取組の進行状況の確認や課題解決に至っていないケースの検証等を行った上で、生徒の実態に応じた計画になるよう、毎年、いじめ防止の体制等を確認し、見直しを行う。また、学校のホームページ等で公開するとともに、入学説明会や学校便り等により、生徒、保護者、地域に広く示す。

令和5年4月3日 改定

いじめ防止等に関する年間計画				
	学校	生徒	保護者	地域・その他
4月	校内研修①	学年・学級開き	授業参観	
5月		校外学習を通じた人間関係作り		
6月	小学校との連絡会			
7月	学校生活アンケート			
	三者懇談			
8月	学期末集計 点検・検証			
	校内研修②(?)			
9月	小・中合同研修			
10月		学校行事を通じた人間関係作り		
11月	学校教育アンケート			オープンスクール (その後、学級懇談会)
12月	学校生活アンケート			
	1, 2年学級懇談会			
1月	学期末集計 点検・検証			
2月	学校風土・いじめ調査②			入学説明会
3月	学校生活アンケート			
	1, 2年学年懇談会			
	小学校との連絡会 年度末集計 点検・検証			

【組織的な対応の流れ】



【留意事項】 *大阪府教育委員会「いじめ対応マニュアル」(平成24年12月参照)

「いじめ対応プログラムI」(平成19年6月参照)

○いじめを訴えてきた生徒への対応

- ・生徒の心身の状態等に配慮し、生徒の立場を考えた上で、思いを十分に聞き取る。
- ・いつ、どこで、誰に、何をされたか、事実を整理し、丁寧に聞き取る。
- ・聞き取りをする場所も含め、話しやすい雰囲気づくりに配慮する。
- ・結論を誘導したりせず、本人の言葉が出るまでじっくり待ち、本人の要望を十分に聞く。
- ・担任一人で、いじめかどうか判断をせず、複数の教師で連携する。
- ・対応やケアを継続するとともに引き続き様子を見ていく。

○いじめたと訴えられた生徒への対応

- ・いじめたと決め付けて話を聞くことがないように、生徒の立場を考えた上で聞き取る。
- ・事実関係を正確に把握し、学校から関係者への説明を適切に行うために、記録を取る。
- ・それぞれの生徒から、個別に話を聞き、事実関係の擦り合わせを行いながら全体像をつかむ。
- ・目撃した生徒がいた場合、その生徒からも状況を聞く。
- ・スマートフォン等情報機器を使用したいじめの場合、その情報がどういう経路でどの程度広がっているのかを確認する。

○いじめの防止対策委員会について

- ・事実関係から、いじめの事態について判断する。
- ・いじめの事実のあるなしに関わらず、訴えた児童を支援する対応策を考える。
- ・できる限り具体的な支援策や対応策を立て、担任一人に任せることなく、全教職員で対応できるような詳細な役割分担を行う(誰が、いつ、どこで、何をするのか)。
- ・保護者への説明方法、説明内容等も具体的に検討する(複数対応、電話では済ませない)。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー・弁護士等との連携や緊急・重篤な事案に対する「警察等関係諸機関との連携」、「保護者・地域への状況説明」、「報道機関等への情報提供」などについて市教委と連携をとり、相談・協議する。